

容姿を整える

——理髪店の社会学(二)——

原 田 隆 司

理髪、整容、あるいは通常、散髪という仕事について、前回に引き続き、筆者が通う理髪店での手順をまとめ、あわせて店主にうかがった話を紹介する。

2016年11月17日、まず、客である僕は、散髪用の椅子に座る。その椅子について聞いてみる。

僕 ……これ、なんぼぐらいするん、値段。

大将…40万。うちら、散髪屋はじめたときは、椅子、ごっつい高かったんや、40万も50万もしたんや。今やったら、30万ぐらいであるねん。安くなってんねん。散髪屋というのが少なくなってきてるから。

僕 ……パーマ屋の椅子は、構造が違う？

大将…うん、パーマ屋とはぜんぜん違う。うちらのは、もう、誰が座っても潰れんような、どっしりした椅子やけどな。パーマ屋の場合は、普通のチェアと変わらへん。

「パーマ屋」、すなわち美容院では、客が椅子に座ったままシャンプーはしない。別のところに移動する。したがって、椅子はシンプルな構造になっているという。ここからの散髪は、およそ40分の過程である。明らかに区分けされた段階ごとに異なった作業が行われている。いくつかの道具や機械を使い分けながら、理容師の手によって成し遂げられる作業である。

その手順をまとめていく。

(1)

一、バリカンで刈り込み

そんな話をしている間に、タオルと「刈布かりふ」と呼ばれる布が掛けられて、バリカンが動き始める。椅子に座ってから、3分15秒が経過した。年季が入っているというバリカンの音が、耳に近づいてくる。

僕 ……まず、これは、何という作業？

大将…刈り込み。

僕 ……僕の場合、長いからバリカンでするけど…

大将…いや、一緒。

僕 ……短い人は、ハサミ？

大将…短い人も、バリカンするよ。うん、関係ない。バリカンでしたほうが、早いやん。

僕 ……バリカンは、技術は要るん？

大将…バリカンに技術が要る？……あんまり要らんな。

僕 ……誰でもできる？

大将…誰でもできるな。坊主であろうが、だれでもできるわ。

2分30秒ほどで、バリカンでの刈り込みは終わる。

二、鋏で刈り込み

バリカンが終わると、鋏はさみを使った刈り込み(粗刈り)に移る。ここではじめて、耳のそばから、シャキ、シャキという鋏の音が聞こえてくる。散髪屋さんを象徴する音である。

大将…刈り込みで、だいぶん差、出るわな。これで、上手いか下手か、それがみえるな。それでも、はじめての頭、刈る人は、戸惑うやろな。どれぐらい刈り込んだらいいか、やっぱりむずかしいわな。

大将は、三種類の鋏を使っているという。この刈り込みの鋏と、仕上げの鋏、そして梳き鋏である。梳き鋏は、髪の毛を梳く時に用いるので、使わない場合もある。刈り込みと仕上げは、形としては同じ鋏であるが、大将は使い分けている。

大将…一本やったら、すぐに切れんようになるやん。これ、今、切ってるやろ。それが、切れんようになるやん、そればかり一本、使ってたら。

僕…刃が？

大将…うん、刃がな。ほな、また、研がんなん。じゃまくさいやん。それやったら、三本、四本、持つてるほうが…それをクルクル回しているほうが、長持ちするやん。

僕…じゃあ、その、刈り込みのやつと、仕上げのやつを、ひっくり返してもええわけ？

大将…そや、そや。かまへんよ。それでも、充分、刈れるから。

僕…大将は、今、どうしてるん、はつきり分けてるん？

大将…おれはもう、分けてるけどな。分けとかな、そんなん、刈り込みの鋏で、今度、仕上げをしても、うまいこと仕上がらんねん。

むしろ、刈り込みと仕上げの違いは、クシ(櫛)であるという。それぞれ「粗グシ」と「ミジンググシ」を使う。

大将…クシが変わるからな。クシが変わったら、それだけ、鋏を変えんことには……。細かい仕事できひん。

樹脂製で一本2、3000円の粗グシは、ミジンググシよりも、目が粗く「隙間がようけ空いて」いる。

4分35秒ほどで粗刈りが終わる。開始からは14分40秒が経過する。

三、梳く

続いて「梳き」に入る。ここで、クシと鋏を代える。クシの話が続く。

大将…ベッコウのやつたら、3万5000円すんねん。

僕…3万5000円。

大将…3万5000円。ええ値やろ。

僕…これが、どっち用？ 仕上げ用？

大将…仕上げ用。

僕…これが、なんで、3万5000円。ぜんぜん分からへんわ(笑)。

大将…そんな素人は…それでええねん。知る必要もないやん。3万5000円やで。鋏でも、みな、10万円からすんのやから、な。もう、お客さん、みな、びっくりしよう。5000円や1万円や、思ったらしいわ。お客さんに言うたら、びっくりしよる。そらびっくりするわな、なんでそんな10万円もするねん、いうて。たかが鋏やん。

僕…でも、けつきよく鋏が一番…鋏が命なんでしょ？

大将…そらあ、鋏なかったらもう、毛、刈られへんわな。

僕…鋏は、二種類、二種類で、大将は、何本か持つてはるん？

大将…そや。粗刈りと仕上げと、二、三本づつ持とつたらええねん。
僕…ほんで、梳くやつと。

大将…そう。梳くやつなんか、俺、一本しか持つてへん。梳くのはな、あんまり傷まへん。

僕…いま、これでしょ。

大将…今、梳き鋏や。

僕…これは、あんまり傷まへん？

大将…傷まへん。

僕…ちよつとしか、せえへん？

大将…あんまりせえへんからな。刈り込みとか仕上げは、ぜつたい、どんなお客さんにも使うやん。そやから、ものすごい、傷みが早い、鋏はな。だから一カ月に一回は、ぜつたい研ぐよ。

僕…仕上げの鋏は、そんなに…粗刈りよりは？

大将…いや、一緒や。粗刈りと一緒や。

僕…そんなに頻度は…酷使してる感じはしないけど、一緒なん？

大将…まあ、それでも、一緒ぐらい傷むなあ。やっぱり一緒ぐらい、粗刈りして、そこを修正してるからなあ。

僕…ほんなら、カウンターつけて数えたら、一緒ぐらい使うてる？

大将…ああ、そやな回数は…うん。回数は、そんなに変わらへんよ。まだ、ミジングシのほうが多いかな。細かいもん、仕事だ。

僕…ああ、そうか。回数は、あとのほうが、仕上げのほうが…

大将…そら、そうやん。仕上げのほうが大事。

2分40秒で、梳き終わる。開始から17分20秒たっている。

四、仕上げ

鋏とクシを使う三つめの「仕上げ」が始まる。鋏が代わる。再び鋏の音が心地よ

く聞こえ、同時に、会話は会話として続く。

僕…ミジングシは、だいぶん長いこと使うてる？

大将…ああ、使うよ。一生、使えるよ。たまに落としたりして、刃こぼれがするやろ。

僕…うん。

大将…そんなときは、また、修理に出すねん。

僕…修理するん？

大将…うん、修理するねん。一本一本修理するねんで。そやないと、そんなん、一本一本買うとつたら、高ついでしやあない。

僕…その、刃こぼれの修理つて、その、壊れた刃と一緒に送るわけ？

大将…そうや、そやから、壊れた刃を置いとかな。それを、また、うまいこと…あの、修理するところが持つて帰つて、それを、あれやん、ひっつけてくれよん。ほな、全然分からへんで。ひつつけた、いうのん、分からへんで。うまいことしよるよ。

一週間に一回、回収の人が来て、その人がクシを修理するところに出してくれるという。

再び鋏の話になる。

大将…粗刈りというのは、あらかた、格好かかこだけ付けたらもう、刈れるから。そやから、仕上げの鋏が一番、細かいわな。「鋏の」刃のあれは、変わらへんで。

僕…ほんなら、10万円の鋏と3万5000円のクシで、13万5000円やん。

大将…それを、お客さんに使うてる訳や。

鋏は「一生もん」であるから、一度購入すれば、月に一回、自分で研ぐだけであ

るといふ。

大将…研ぐのは、もう、角度、決まっているし。45度やったら45度。梳き鋏
やったら35度。もう決まっているから、それに合わせて、研ぐから。

僕…研いだら、減っていくやろ？

大将…なんぼも減らへんわ、そんなん、短かくなったら、えらいことやん。

僕…何でできてるん？

大将…え、超合金やん。超合金やから、そんな減らへん。

超合金の鋏は、グラインダーで研ぐ。グラインダーにはペーパーを取り付ける。
このペーパーは消耗品であるそうさ。

話は、散髪とは、どういうことなのか、という素材で基本的な問題に向かった。

大将…だから、あとはバリカンで、どんだけ、うまいこと、こう、…：ほ
かすか、いうだけやな。

僕…ほかす？

大将…うーん。段のつかんように。

僕…鋏を、できるだけ、使わんように…

大将…うん、使わんようにな。バリカンで、だいたい、粗刈りみたいに、し
てまう。

僕…一番安もんの道具で、きれいにしておく訳？

大将…そうそう、そうそう。

僕…ははは。

大将…で、あとで、仕上げで…

僕…上等の道具で…

大将…パチッと決める訳や。

僕…13万5000円で。…そんなん聞くと、ありがたいなあ。そんな高価
なもので…

大将…なんで、ありがたいんや。それが商売やん。やっぱり、鋏とクシや。
結局メインは、鋏とクシやん、うちのな。鋏でも、ええのん持った
ら、絶対、楽やん、それで。よう切れるから。

僕…その、仕上げって、結局、何をしてるん？ 飛び出してるやつを、抑
えてるわけ？

大将…飛び出してるやつもやし…：あの、どないうんか、まだらになつて
やつを…：結局、はじめの粗刈りだけやったら、雑やん。それを、た
だ、修正してるだけやん。ちょっと、ここ、もうちょっと、白うせな
いかんとか、あ、ここちょっと暗い…黒いなあ、と思たら、その、ど
ないうんか、それを、ミジングシでな…

僕…前後の毛が…きれいに整う？

大将…うん、整ういうこと…

僕…整う、ということは、平面になる？

大将…そやそや、ま、平面やな。

僕…面になる？

大将…きれいな面になる、な。

僕…もちろん、左右…

大将…そや、対称や。そらそや、こっただけ白かって、こっちは黒かったら、
おかしいやろ。

僕…で、一番下の切れ目から、だんだん長くなっていくの？

大将…そらそや、そんなん、上まで全部短かったら、釣り合いとれへん。

僕…それは、言葉で言いくことかもしれへんけど、ぱつと見たら、も
う、ここ、って、もちろん分かる訳？

大将…ああ、そや、もちろん。もちろん、それ分かつとかな、そんなん…

僕…今、それは…

大将…これは、今、毛、出てるやつだけ切ってるだけ。こう、横へ出てるや
つだけ、それを切ってるだけ。面を揃えてんねん。この面をな。

僕…なるほどな。…今日、なんか、むっちゃ白いなあ。

髪の色が白くなっているのを、ここ二、三年、気になっていた。特に散髪をして短くなった時に、気になる。思わずそれを口に出した。しかし、それは違っていた。

大将…白いの、今、天花粉を振ったからや。

僕…あ、それで…びつくりしたあ。

大将…天花粉を振ったから白いんや。天花粉を振らんことには、その、段が分からへん。

僕…ええ？ 天花粉が付いたら…

大将…段が分かるやん。

僕…段々が見えてくる？

大将…段々が見えてくる。塗ったとこと、塗ってへんこととことな。

僕…塗ってるところが出てる訳か？

大将…出てる…まあ、全体に塗るけどな、それを…

僕…付いてないところが、へこんでる訳？

大将…いや、へこんでへんよ。

僕…違うの？

大将…うん、へこんでへんけどな。一応、全部に、ずーと、ひととおり、付けるけど。あと、自分で、この「直鋏」じかばさみいうてな、これ入れる時に、

そこを直鋏が通ってへんだら、天花粉、残ってるやん、天花粉を、きれいに清掃…掃除せな。

僕…付けて分かるんじゃないかって、今から刈るところを、まんべんなく、刈り残しがないように、全部に粉をつけとく。

大将…そう。刈り落としのないようにな。

僕…なるほど、やっと分かった。

大将…分かったか？

(5) 下刈りしたすべての髪の毛に天花粉を付ける。それは、仕上げの鋏が残らず当た

るようにするためである。

仕上げは、7分40秒で終わった。開始から約25分である。大将がハタキで毛を落としてくれる。

大将…そんなん分かつても、しゃあないけど、素人は。技術者は、それを早

うマスターせな、あかんのや。

僕…でも、なかなか、時間かかる？

大将…そら、覚えの悪いやつやったら、五、六年かかるやつもおるし、いろ

んなやつがおる。

僕…もう、今やったら、大将、ぜんぶ98点くらいの仕上がりに？

大将…うん？、98点？

僕…100点満点で。

大将…110点やん。

僕…失礼しました、ははは、失礼しました。

大将…何を言ってるの。100点越えへんたら、そんなん、お客さん、心

配するやろ。こんな頭で外へ出れんのかなあ、と、思て。心配するや

ろ。心配せんように、もう、どこへ出てもおかしい頭にせんことに

は、あかんやろ。

本場に失礼なことをいってしまった。

理髪師は、「髪」を切るのであるが、それは「頭」を整える仕事であるともいえるだろう。首から上を整えるのである。そこは、首から下、つまり服で包み込んだ胴体や手足とは異なり、多くの場合、むき出しのままである。人の顔を見るといつでも、顔だけではなくて、前からみえる頭全体を見ている。理髪師は、その視線に入る部分を整えている。「外へ出る」頭にしてくれるのである。

日本理容美容教育センターの発行する教科書『理容技術理論Ⅰ』では、「理容の意義」について、次のように説明されている。

理容は職業として長い歴史をもっている。社会の職業の中で、人々の生活に密着して果たしている役割は大きい。

理容師法では「理容とは、頭髮の刈込、顔そり等の方法により、容姿を整えることをいう」とある。髪を切ったり、顔を剃^そったりして、人の容姿を整える仕事が職業としての理容の役割である。(『理容技術理論1』6ページ)

理容師法は、昭和22年(1947年)に制定されている。ちなみに、昭和32年(1957年)に制定された「美容師法」では、「美容」とは「パーマメントウエーブ、結髪、化粧等の方法により、容姿を美しくすることをいう」と定められている。

『日本国語大辞典 第二版』(2002年)では、「理容」は、「理髪と美容」と説明され、「理髪」は、まず最初の意味として「髪をくしけずり整えることと、髪の毛を切ったり結んだりして整えること。調髪。整髪」と定義されている。その用例は鎌倉時代の文献(1199年)が用いられている。二つ目の意味としては「元服または裳着^{もぎ}のとき、童髪^{わらわがみ}から成人の髪に結うこと」、三つ目の意味として「僧侶が還俗して髪をたくわえること」と説明されている。また、「美容」という言葉の最初の意味としては「美しい顔かたち」と定義され、1620年代の文献が最初の用例として引用されている。

ということ、「理髪」と「美容」は、現代とは違う意味であるが、近代以前から用いられていた言葉である。対照的に、「理容」は、第二次大戦後につくられた言葉のようである。

五、シェービング

髪を切るのは、ここまですである。

次は、シェービングに移る。いまは替え刃を付けたカミソリを使っているが、かつては「日本刀」と呼ぶ刃で剃^そっていた。

襟^{えり}剃りが終わると、顔に移る。

僕 .. 顔剃るのも、むずかしい？

大将 .. 昔やったら：今は、せえへんけど：風船をなあ、はじめ、割らんように、石鹼を取りよるんやな。今、学校に行っても、それはしると思わ。石鹼を丸い風船に塗るやん。それを、ズーと日本刀で剃らせよんねん。ほな、ちよつと日本刀が立つとつたら、もう、パーンと割れるからなあ、風船がな。

僕 .. 「顔を剃られているので、話しにくい」角度がむずかしい？

大将 .. そうそう。角度がむずかしい。

僕 .. 立てたら、あかん？

大将 .. 立てたら、ぜつたい、あかん。そやから、常に、寝かしておかな、あかんねん。

僕 .. 同じ角度で？

大将 .. 同じ角度で。

僕 .. あんまり寝すぎると、切れない？

大将 .. そやなあ、あんまり寝過ぎても、切れにくいなあ。ある程度の角度は要るわな。そやから、ヒゲがどういう生え方してるとか。人によってみんな違うからな。

僕 .. 顔のなかで、どこが一番むずかしいん？

大将 .. そらあ、鼻の周りや。やつぱり、つい、パーと、普通のように、このへん(頬)みたいに、普通にサーとやってまう時あるやんか。ほな、ぼーんと、刃で切ってまう時あるから。そらあ、吹き出物が出とつたり、そんなしとつたら、しゃあないけどな。吹き出物が出てる時に、パーと血ふかしても、お客さんも何も言わへんけどな。何でもないのに、何でもないところで、傷付けられたら、やつぱり、お客さんも感じ悪いやん。

日本刀から替え刃のカミソリに代わって、メンテナンスも変わった。

大将…昔やったらな、自分で研いどつたやろ？ 砥石といしでな。それが今、全然
せえへん。替え刃やから。

僕…なんで替え刃にしたん？

大将…いや、替え刃のほうが楽やん。

僕…楽ちゆうのは、剃りやすい？

大将…剃りやすい、ちやうやん。

僕…メンテナンスが…

大将…おお。ほんなん、何もせんでええやん、あいだ。暇やったら、普通の

剃刀やったら、日本刀とか、そんなやつたらなあ、研がなあかんや
ん、や。

僕…うんうん、何か、革のやつで…

大将…そう、革の…でもあれば、切れなんだら、すんねん、あの、革に当
てんねん。ほなら、また切れるようになんねん。することは、ようけ
あるねんで。丁稚の時やったら、おれら、暇やったら、砥石で日本
刀、研いどつたからな。

僕…ふーん。毎日、研がなあかんくらい？

大将…ああ、毎日研がなあかんやろな。やつぱり、三、四人も、それ「同じ
日本刀」ばっかりで剃ったら、切れ止むもんな。

日本刀であれば、そうした意味で気を遣うが、それに比べれば今は楽である。

大将…今は楽や。このカミソリ使ったら。切ることあらへん。昔やったら、
刃がむき出しやろ。それで、どないいうんかな、日本刀でも、レザー
でも、刃がもろに出てるさかい、よう、ほんまに、ちよっと力が入っ
たりしたら、ばあっと、こう、血ふかす時あんねん。今やったら、撫
でとつたらええねん、撫でとつたら、毛、切れるからな。その点、楽
は楽やな、良うなつた。

しかし、今でも、日本刀で顔を剃る専門の人がいるという。

大将…職人でも、顔そり専門に行く人、居んねで。顔剃りだけ、他、何もせ
えへんで、顔剃りだけ。そのかわり、そんな人、日本刀なんか、むっ
ちゃ研がしてるわ。気持ちええで、そんな人に剃ってもらうたら。

開始から26分10秒。大将はシェービングクリームを泡立てる。そして、横になっ
ている僕の顔に、蒸気を当てる機械を近づけてくる。

大将…このスチーマーでもな。ないところ、ようけ、あるよ。どこの店でもあ
るのん、ちやうよ。50万も60万もすんのよ、これ。

僕…ええつ。

大将…ほんまやで、そんな、安いのとちやうで。

僕…そうなん。真面目やなあ。

大将…ローンでな、毎月、ローンで払とつたんやけど。もう充分、払い戻し
たけどな。

僕…真面目やなあ。

大将…やつぱり、それだけのこと、準備はしとかな、な、やつぱり。そい
で、信用とらな、あかんやろ。あそこ行ったら、顔剃りの時、スチー
マーしてくれるわ、気持ちええやん。それを、誰かの口コミで、ぱっ
と誰かに入ったら、うちへ来よるからな。

頬から額、そして口の周りど、顔をすべて剃ってもらう。
開始から約36分で、シェービングが終わる。11分の過程であった。

六、洗　　う

大将が、「シャンプー・クロス」を掛けてくれて、僕の座っている椅子を45度、

右に回転させる。僕は前かがみになる。洗髪に移る。

大将に、手のことを聞く。広い意味では、手も理容師の道具である。

大将… だいたい、こういう、うちらみみたいな職人は、指紋は薄いな。消えて

まうねんな。

僕… いや、こんだけ、「流してもらっている状態で」やってはつたら… 手、

痛くならへんのん？

大将… 痛ならへんよ。

僕… 手入れしてはんの？

大将… 手入れ？ なんもせえへんよ。何、手入れすんの？

僕… クリーム塗ったり…

大将… 冬場は、そういうことしてるよ。そやないと、やつぱり、荒れるや

ろ。シャンプーとかそんな触つたらな。

僕… 毎日、シャンプーしてたら…

大将… 手は、きれいよ。

僕… 手、ツルツルちゃうん？

大将… ツルツルでもないで。ちゃんと、あるで。

洗髪は 2 分 40 秒、開始から 38 分 40 秒である。洗い終わったところで手を見せてくれる。指紋がどの程度みえているのか、みえないのか、注目する。

僕… 「指紋は」あるなあ。

大将… あるよ、そらあ。

僕… やつぱり、それ用に、丈夫な皮膚になってるんかな。

大将… 分からん。

僕… 爪は、よう切る？

大将… 爪は、一ヶ月に二回ぐらい、切るかな。そやなかったら、やつぱり、爪伸びたらな、「お客さんの」頭に傷いけるやろ、シャンプーする時

に傷いけるから、爪は切つとかな、あかん。そら、そや。

大将は、「クロス」を掛けてくれて、洗い終わった僕の髪にヘアトニックをつける。

僕… あと、道具って、何がいるん？

大将… あと、道具って、なにもいらへん。ドライヤーとブラシだけやん。

僕… そうか。

大将… ドライヤー、ブラシ、な。

僕… タオルとか、どうしてはるん、いっぱい使うでしょ。

大将… 使うけど、洗うだけやん。

僕… 普通のタオル？

大将… そうや。普通のタオルを洗って、殺菌して、畳んで、こういう棚に入れたかな、しゃあない。

僕… これ「前掛け」は、特別なもん？

大将… いや、これは、何も… ただ、俺は、後で、トニックやら塗って、油

やら振って、してる時に、服の上にこぼれたらいかんから、ただ、俺、前掛けをするだけで。何も…

僕… ぜんでもええの？

大将… ぜんとこ、多いよ。ほんなん、ぜんとこばっかりやん。うちぐらいちやうか、こんなんしてんの。

開始から 40 分 40 秒。頭と肩のマッサージをしてくれる。

七、ドライヤー

ドライヤーの音がし始める。

話題は、仕事とは無関係に、これからのことに移った。

大将…もう、そんな、来る人決まってもうてるから。

僕…でも、あれか、どんどん減るから…

大将…年寄りばかりやのに、減るやん。

僕…補充せなあかん。

大将…補充せなあかん。若いやつ、たまに、来てもらわな、な。年寄りばかり、先の短い人ばかりやのに、ほんなもん、かなわんやん。ほんなんやったら、俺とこの店、潰れてまうやん。年寄りは、よう来てくれるけど。

僕…自然に減っていくやんなあ。

大将…年寄りは、ほんま、絶対、ひと月に一回来るからなあ。若いやつやったら、やつぱり、二、三カ月に一回。そんだけの回転が違うもんな。

そやから、やつぱり、年寄りもおり、若い子もおり…やつぱり、そうして、あれしとかな。

僕…なるほど。

大将…ほな、若い子がいたら、まだいける訳や。

僕…で、その若いやつが、また、だんだん年寄りになつて…

大将…な、だから、マワリやんか。な、マワリや。

開始から約43分で、ドライヤーが終わる。

八、最後の仕上げ

クシで、最後の調整をしてくれる。

僕…まあ、あと20年ぐらいは、できるな。

大将…何を言うてんのや。20年なんか、もう死んでもうてるわ。もう、原田はんの頭も、あと10年刈ったええとこかな。

僕…だから、ま、そこまでは…

大将…うん、10年刈ったらええとこや。俺は、80までしようと思てるから。

僕…10年やる？

大将…うん？ あと9年。もう71になったからな。

僕…あ、一になったんか。

大将…なつたんや、このあいだ、七月。

僕…そらそら。

大将…はい、どうぞ。

開始から43分25秒で、この日の散髪は終わった。いつもと同じ手順で、いつもと同じように仕上がった。毎回、そう思う。

九、散髪とは

ここまでの手順と、それぞれの時間をまとめておこう。()は、僕が椅子に座ってから、つまり散髪がはじまつてからの累積の時間である。

バリカンで刈り込み	2分30秒	(5分45秒)
鋏で刈り込み	4分35秒	(14分40秒)
梳く	2分40秒	(17分20秒)
仕上げ	7分40秒	(25分)
シェービング	11分	(36分)
洗う	2分40秒	(38分40秒)
頭と肩のマッサージ	2分	(40分40秒)
ドライヤー	2分20秒	(43分)
最後の仕上げ	25秒	(43分25秒)

これが、「頭髪の刈込、顔そり等の方法により、容姿を整える」という「理容」の実際である。大将が、僕という顧客に毎回、この手順と時間でやつてくれる。

終わってから、しばらく大将と話を続ける。

いつも話題になる普通の理髪店と、10分1000円で刈る店の違いについて、また話す。大将は、見るだけで、普通の理髪店で散髪をしたのか、そうでないのかが分かるという、

大将…分かる。もう、見たら分かるもん。分からへんやろ？

僕…「ガラスの扉の向こうを指して」見える？ 今、あそこに見えて男の人は？

ちようど、この店の前の通りをへだてた向こう側の歩道を、一人の若い男性が歩いてた。

大将…あんな人ら、普通の散髪屋、行つとる。

僕…なんで分かるん？

大将…毛並み、見たら分かるやん。

僕…ちゃんとしてるん？

大将…そらそや、そんなもん、あんなん、1000円のところ行つたら、あんだけキレイに、毛、揃てへん。見たら分かる。……俺らなんか、たまに電車乗って、大阪やらで、ぱっと座わとって、前の人やら横の人の毛…俺ら、散髪屋やから、気になるやん。あの人、キレイに刈つとんなあ、思う時あるよ。あ、あれは、1000円のところ行つとな、とか。

僕…伸びていっても、平面でキレイに揃ってる？

大将…うん、結局ね、段がつかんとね、みな一緒に平行して、ぱーっと揃てんねな。

僕…それは、切り方によって、そのあと、伸びていったときに、余計、はつきりしてくる？

大将…してくるよ。もう、伸びてきたら、すぐ分かるやん。短い時は、分か

らへん。

僕…切つてすぐは、分かへん？

大将…切つた時は、分からへん。…手ぐし、入れたら、段つくもん。そやから、ぜつたい…段をつかんようにせなあかん。そやから、最後、天花粉ぬつて、結局、面を平らにせないかん。出てることもありやあ、へつこんでるところもあるから。そこをうまく……

僕…そら、やつぱり、30分、40分かけると、できひん…

大将…できひん、うん。それ、しようと思たら、やつぱり10分や15分で、できひん。まあ、それが、うちの、散髪屋の基本やな。

この日の最後に、散髪屋さんの、もうひとつの意味について話した。

大将…ヒゲなんかはな、もう、毎日剃るもんやろ。そら、そんな気にすることないよ。それよか、やつぱり頭やろ。頭は、ぜつたい、自分ではできひんのやから。ヒゲは、自分でできるやん。

子どもの髪を大人が自宅で散髪することもあるというが、そう単純ではないという。

大将…家ではできんからなあ。

僕…まあ、子どもなんか、やつぱり、してるけど。

大将…子どもなんかは、親がようやくやつたりするけどな。そやけど、ほんま、直してくれ、いうて来よるしな。あんなん、普通のプチバサミでしようから…今、ようテレビで売ってるやん…散髪の一式。あんなん、皆、買うて、やりよんねん。一応、普通のサラリーマンの奥さんなんか、家でできると思とんねん。テレビでは、簡単に、シャーとやつとるけど、絶対できひんから、絶対、失敗しよる。ほな、また、うちに連れてくる。

僕 .. ははは。

大将 .. 5000円ぐらいで売ってる。クシから全部な。ほな、それ買うて、家でして、ほいで、俺とこ来て、また2000円も3000円も払とつたら、高うついてしゃあない。

僕 .. ははは。

大将 .. 家でしたらあかんで、言うたんねん。こんなん、できるもんちやうから、いうて。

僕 .. 子どもやったら、美容院に行く子もおる？

大将 .. うん、美容院に行く子、おるよ。剃らんでええからな。

僕 .. そうか。

大将 .. 刈るだけやから。だから、少々、毛、長うても、かまへんねん、パーマ屋の場合はな。

僕 .. ある程度の年齢になったら...大人の男が、人にやったもらわなあかんのつて、散髪ぐらいちやうのかなあ。

大将 .. 散髪ぐらいやろう。

一般の人間が、自分の身体のなかで、誰か人の手を借りて、日常的に手入れをするのは、髪の毛だけではないだろうか。

The Process of Hair Cutting: A Sociological Study of Barbershop (2)

HARADA Takashi

要旨：「理容師法」(1947 年制定)において、「理容師とは、頭髪の刈込、顔そり等の方法により、容姿を整えることをいう」と規定されている。

その手順を、筆者の利用する理髪店において確認する。バリカンでの刈り込み、鋏での刈り込み、鋏を用いた梳き、鋏での仕上げ、シェービング、洗い、頭と肩のマッサージ、ドライヤーを用いた乾燥、最後の仕上げ、という 9 つの手順からなっている。全体で、40 分余りの時間を要するこの過程において、主に用いられるのは、専用のクシと鋏である。

一般的に言えば、現在において、私たちは、自分の身体のうち、「頭」についてのみ、こうして専門家によって定期的に整えてもらっている。

キーワード：理髪店、社会学

Abstract : Barbers cut and arrange hair of the customers. This process consists of nine steps : cutting roughly with clippers, cutting roughly with scissors, thin out with scissors, trimming with scissors, shaving, washing, massaging head and shoulders, drying, and finishing.

They use special scissors and combs for this forty minutes process.

So barbershop is an extraordinary place for us in our ordinary lives.

Key Words : barbershop, sociology